

プッチーニ作曲 歌劇「外套」

200315

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物						見どころ
一幕 57分	1	はしけの 情景	セーヌ河に浮かぶ艇のオーナーのミケーレは、パイプをくわえ夕日を眺めている。 ミケーレは、ジョルジェッタに仕事の終わった人夫たちに酒を振る舞うように言い、彼女にキスしようとするが、無視されるので船倉に降りる。通りかかりのオルガン弾きが呼び止められ、ジョルジェッタは、ま ずティンカと踊り、これをルイジが引き取って強く抱きしめて踊る。 ミケーレが戻って来るので、ルイジは金をオルガン弾きにやって、船倉の方に降りて行く。	8	ミ ケ レ	ジョ ル ジ エ ッタ	ル イ ジ	ティ ン カ	タル バ		
	2	良くない夫 婦仲	ジョルジェッタは、何もなかったようにミケーレに話しかけるが、ぎくしゃくとして噛み合わない。 相変わらずミケーレの機嫌が悪いので、ジョルジェッタは黙ってられるよりは痣の出来るほどぶたれた 方がまだましだと愚痴る。	4	ミ ケ レ	ジョ ル ジ エ ッタ					
	3	各人の夢	そこへタルバの妻で屑拾いのフルーゴラが船に乗り込んで来て、拾い集めたガラクタをみせ、ジョルジ エッタを相手に屑拾いの哲学を披露する。 やがてミケーレは明日の仕事をルイジに頼んで船倉に戻り、酔っ払いのティンカがせめて酔っていると きぐらいは笑っていようよといいながら立ち去る。ルイジがこれに合わせて、自分の暗い青春を嘆く。 一方フルーゴラは小さな自分の家を持つ夢を語る。ジョルジェッタはパリの空気を懐かしがる。 同郷のルイジがこれに合わせて、2人はともに故郷の魅力を懐かしむ。 遠くに船の汽笛が聞こえ、ルイジとジョルジェッタの2人だけになる。 2人は束の間を惜しみ愛を語るが、夫に見つかったら殺されると彼女は恐れる。	18	ミ ケ レ	ジョ ル ジ エ ッタ	ル イ ジ	ティ ン カ	タル バ	フルー ゴラ	ジョルジェッタと ルイジの 二重唱 ルイジの歌
	4	駆け落ち の約束	ミケーレは、ルイジからルーアンで船を降りたいといわれるが、稼げないと言われて諦める。 ジョルジェッタが、ルーアンで降りたい理由を訊ねると、ルイジは夫婦仲を裂きたくないからと答える。 だが彼女はルイジの愛を激しく求める。2人でどこかへ逃げようと相談し、ルイジは彼女のマッチの火を 合図に、後で再び寄ることを約束して去る。	7	ミ ケ レ	ジョ ル ジ エ ッタ	ル イ ジ				ジョルジェッタの 歌 ルイジの歌
	5	修復不能 な二人	ジョルジェッタは戻ってきたミケーレに、飲んだくれのティンカを首にしたらと言う。 ミケーレが、ふしだらな女房を殺さないために飲んでるのさと答えると、ジョルジェッタはぎよっとすく む。辺りが闇に閉ざされると、寝室に入らず佇んでいるジョルジェッタのところへミケーレが近付いてき て、去年、自分たちの赤ん坊が死んでしまってから、楽しく幸せだった生活が、すっかり変わってしまった と嘆く。彼は妻に、まだ寝ないのだろうと、昔の愛を求めるが、彼女は顔をそむけて寝室に入る。 ミケーレは、堪忍袋の緒が切れて、「商売女」と歯ざしりする。	10	ミ ケ レ	ジョ ル ジ エ ッタ					
	6	殺害する	ミケーレは、ジョルジェッタが正体不明の男を待っていることに気づき、見つけたら殺すと言いついで聞かす。 ミケーレがパイプに火をつけたら、ルイジがそれを合図と勘違いして忍び込んで来たので捕まり、首を 締め上げられ女房との関係を白状させてから、殺す。 ミケーレは、ルイジの死体に外套をかぶせてジョルジェッタを迎える。 ジョルジェッタは、先ほどミケーレが優しさ対応してくれたので、反省の言葉を言うが、ミケーレは、すで に切れているので許さすに無視する。そして、ジョルジェッタが、「外套は、あるときは喜びを、あるとき は苦しみを隠す。」と、昔、ミケーレが自分に言った言葉を繰り返すが、ミケーレは残酷に「ある時には罪 をな！」と言って外套を開き、ルイジの死体を見せる。 ミケーレは力づくで、妻の顔を無理矢理ルイジの遺体に押し付ける。	20	ミ ケ レ	ジョ ル ジ エ ッタ	ル イ ジ				ミケーレの歌

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。